

大田原マラソンについて

政友新和自民クラブ
櫻井潤一郎 議員



代表質問



農業委員の改選について

質問…公認コースの取得状況について伺います。

答弁…2月上旬に日本陸上競技連盟に公認コース取得を申請しました。今後、日本陸上競技連盟から派遣される検定員と日程を調整し、新コース全体の検定を受けて公認コース取得となる予定です。参加者募集の時期には、日本陸上競技連盟公認大会として、申込み受付開始ができて

ると考えています。

質問…3年間休止するという理由として、とちぎ国体があり、職員の負担が大きいのので休ませてほしいということでしたが、大会運営に関して、市職員の関わり方について伺います。

答弁…第32回大会では栃木陸上競技協会の役員をはじめ市職員、ボランティアの方々を含め、約1500人で運営してきました。

このうち、市職員は当時の職員数571人に対し292人であり、約半数の職員が従事しました。大会前日にも教育部内職員12人に協力いただき、スポーツ振興課全職員と合わせて24人で会場内準備等の対応をしました。第33回大会も、コースが休止前同様のワンウェイコースとなりますので、同等数の従事者で運営したいと考えています。

質問…農業委員及び農地利用最適化推進委員の制度改正によるメリット、デメリットについて伺います。

答弁…制度運営上の課題を挙げるとするならば、女性委員の登用率になるかと考えます。現任期中の女性委員は4人で、定数17人に対する割合は23.5%であります。国やおたわら男女共同参画プランで求めている

る30%には達していません。女性の社会参画推進に対しては、今回の改選では県レベルの女性組織が現職4人の女性農業委員とともに県内市町キャラバンを行って、市長、議長への要請書の提出、関係団体への推薦、応募の働きかけを行うなど、女性登用の目標達成に向けた取組を行っています。

質問…推薦、応募の状況について

て伺います。
答弁…農業委員は定数17人のところ候補者21人、うち女性は7人でした。農地利用最適化推進委員は、市内を43地区に分けて、その地区ごとに1人を選任しますが、推薦、応募がなかった地区が1つあり、2月28日時点では候補者42人で、全て男性でした。この内容は、農業委員会のホームページで公表しています。